

医療用アルコールを代替える高濃度アルコール製品開発への想い

2020年4月24日
株式会社南部美人
五代目蔵元
代表取締役社長
久慈 浩介

いつも南部美人をご愛飲いただき誠にありがとうございます。弊社は1902年創業以来、家訓である「品質一筋」を経営理念に、ここまで地域に愛され、日本で愛され、世界で愛される日本酒を醸すために社員一丸となってまい進してきました。

そんな中、今回の新型コロナウイルス被害の拡大に伴い、地元の医療関係者、私の仲間の医療・福祉関係者などから悲鳴のような声が日を迫うごとに聞こえてきました。「病院で消毒用アルコールが足りない」「自宅介護している家で消毒アルコールが無くなりもうどうすることも出来ない」など、もうギリギリのところまで来ていると思っていました。

医療関係の皆さんは今、最前線で戦っています。そんな医療関係者の皆さんが今のままでは消毒用アルコールも無い、防護服も、マスクも無い。そんな無防備な状態で戦わなければいけません。そんな悲惨な事をさせるわけにはいきません。

このような状況の中で、令和2年4月10日付で（最新更新版は[令和2年4月22日改定その2](#)）「新型コロナウイルス感染症発生に伴う高濃度エタノール製品使用について」の改定事務連絡があり、酒類製造業者においても高濃度エタノール製品を消毒用エタノールの代替品として製造可能になりました。

私達は家業として酒類製造を営んでいます。私達には医療用のマスクや医療用の防護服などは作ることが出来ません。しかし、私達はアルコールを免許で扱う事を許された酒類製造業者です。アルコールなら造ることが出来るのです。そして、アルコールはどんなに大きな一般企業でも造ることは出来ません。私達にしか出来ないのです。

今、目の前で困っている人がいるなら助けたい。私は困っている人を見過ぎて通り過ぎることが出来ませんでした。

そんな中で、国税庁も動き、令和2年4月21日付で[「新型コロナウイルス感染症の発生に伴い酒類製造者が「高濃度エタノール製品」に該当する酒類を製造する場合の免許手続等の取扱いについて](#)」が発表され、製造免許が簡素化されました。

また、高濃度アルコールは危険物でもあるので、消防庁にも関係するのですが、消防庁

からも令和2年4月11日付で「[厚生労働省による特定アルコールの配布に係る消防法令の運用について](#)」や、令和2年3月18日付の「[消毒アルコールの安全な取扱い等について](#)」の事務連絡があり、消防法の迅速かつ弾力的な運用をしていただけるようになりました。

このように、国税庁、厚生労働省、消防庁の3省庁が横の連携を密にしながら、今この国で足りていない消毒用アルコールを何とか素早く医療機関や必要とされている人に届けるよう行動をおこしてくれました。

ここまで国も動いている中、酒造業者として今困っている人を助けるために、私たちが「今出来る事」を考えて、消毒用対応の高濃度アルコール製品の開発を決断しました。

*参照：<https://www.nanbubijin.co.jp/news/21024/>

本来ならば、私達酒造会社が使う原料アルコールを厚生労働省管轄の消毒用エタノール製造会社に回して増産していただければ済む話でもあります。もちろん私はそれが一番効率的でさらには専門外の事を私達がするリスクも回避できますし、最も素晴らしい事なのだと思います。もちろんその方法も考えて動いてきました。

しかし、まわりを見てみると、消毒用アルコールの会社は増産をスタートさせているという報道がたくさん出ているにも関わらず、市場には消毒用アルコールはほとんどありません。さらに医療機関にはいつまでたっても消毒用アルコールが入荷してこない。地方になればなおさらで、さらに岩手県は4月23日時点で新型コロナウイルスの感染者がまだ見つからない唯一の県でもあり、もしかしたら後回しにされているのではないかと思えるほど、地方に行けばいくほど消毒用アルコールがありません。

そんな中で、地方の酒蔵が地方で地方の医療関係者や必要としている人のために消毒用対応の高濃度アルコールを製造出来れば、すぐにその地域に供給する事が出来ます。実際に私の蔵から歩いて2分の病院でも消毒用アルコールが不足しておりかなり困っていたところ、私が生産を開始するという事で大いに感謝をされました。また人口2万7千人の小さな二戸市全体でも開業医を中心に消毒用アルコールが全く足りていない状況を鑑み、二戸医師会と連動して地元医療関係へ優先供給を始める事にしました。

日本には日本酒、焼酎、泡盛などの酒造会社は全国47都道府県全てにあります。そういった地方の酒造会社が消毒用対応の高濃度アルコールを生産すれば、その蔵のある地方での迅速な供給が可能になります。大きな消毒用アルコールの会社はもちろん増産していただき、私達酒造業者の原料アルコールも使っていただき、フル生産していただき、出来るだけ早い時期に全国に消毒用アルコールが行きわたれば、私達の今回の仕事も終わりになり、それが一番正しいカタチになると思います。

私達酒造会社が今回消毒用対応の高濃度アルコールをやる意味は、今、足りていない地元医療関係者などへ迅速に供給できる事、そして、消毒用アルコールが全国隅々まで行きわたるためのワンポイントリリースだと思います。今困っている人へ届けたい。南部美人を 118 年愛してくれた地元の皆さんの困っている声をアルコールで解決できるなら、アルコールを製造できる責任と使命において、どんな形でも挑戦をしたい。そんな想いです。

118 年続いてきた南部美人の長い長い道の中で、まさか飲むことを目的としないアルコール製品を私の代で造る事になるとは思ってもみませんでした。しかし、世界中が危機の今、日本中、世界中の皆さんがやれることをやる、それはどんな小さな事でも必ず成果に繋がります。Stay home という人にうつさないための尊い行動をしている皆さんが日本中、世界中にたくさんいます。私も酒造会社として、自分の出来る行動をし、この国難、いや世界の困難に向かっていきたいと思えます。

私は東日本大震災で学びました。危機の時には「行動こそ正義」です。日本中、世界中で尊い行動をおこしている皆さんに敬意を表し、私も私にしか出来ない行動により、世界に貢献して行きたいと思えます。